



KDC-1102B

4〜13馬力あるカルの樹木粉碎機の中で10馬力の中型クラス。1時間当たりの最大処理能力は580^{kg}、投入できる枝葉の最大径は12cm^φ。マイコン制御で枝葉投入時の処理効率が良い。粉碎はナイフ式で詰まりにくく作業が速い。野菜くずの細断も可能だ。チップはプロワーで90^{cm}、

カライ

中型で処理能力高い樹木粉碎機



左側から樹木の枝を投入し、右側から出てくるチップを袋詰めする作業(いばらき園芸療法研究会提供)

WJTB、2019年11月に「KDC-1102B」を導入。作業者には女性や高齢者もいるため、コンパクトで一定の処理能力が見込める同機を選んだ。自走式で枝葉の積んでいる場所

資材ナビ

自走で移動簡単

同研究会は、花づくりや農作業を通し、障害者などのセラピーに取り組んでいる。耕作放棄地などで樹木を多く伐採する。燃やして処分できないため対処に困っていた。放置していると火災のリスクもある。

「KDC-1102B」は詰まりにくく、処理能力が

プロワーも重宝

気に入った機能の一つは、鍵をひねるだけでエンジンがかかるセルスターター。機械に詳しくない人でも始動が楽だ。チップを飛ばすプロワー機能も重宝している。軽トラックの荷台にビニールシートを敷き、プロワーを向けて飛ばせば、チップの積み込み・運搬が楽になる。

できたチップは花壇や畑のマルチングに使う。雑草が減る他、植物への泥のはね返りが抑えられ、病気も減ったという。見た目も良くなり園芸療法の間からも都合がよい。使い道が広く、欲しがる近隣の人も多いという。

毛利代表は「捨てる枝葉がチップになり、いろいろな用途が生まれた。チップを欲しがる人と接点を持ち、地域活性化につながりたい」と期待する。

チップ化し処分楽に

機械メーカーのカライが販売する樹木粉碎機は、樹木の枝を粉碎し、細かくチップ化する。体積を減らして処分が楽になる他、チップはマルチなどに活用できる。同社のドラゴン「KDC-1102

B」は、中型だが処理能力の高い10馬力クラス。園芸や農業に取り組む茨城県守谷市のいばらき園芸療法研究会は、取り回しがしやすく、いつでも手軽に枝葉の処理ができる「重宝」している。